



営農タイムリー！



発生予察情報について(5月)

2023年4月27日発行

病害虫発生予報第3号(5月)

京都府病害虫防除所より、5月の予察情報が発表されました。

病害虫発生予察第3号(5月) (抜粋)

作物名	病害虫名	予想発生量 (平年比(前年比))
イネ	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 イネミズゾウムシ	並 (並) 並 <u>やや多</u> (やや少)
カキ	炭疽病	並 (並)
野菜類	アブラムシ類	並 (並)
キャベツ	菌核病	<u>やや多</u> (やや多)
アブラナ科野菜	コナガ	<u>やや多</u> (やや多)
ネギ	さび病 ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	<u>やや多</u> (並) 並 (多) やや少 (やや少)

イネ

1. ヒメビウンカ と 縞葉枯病

予報内容 発生量 : **ヒメビウンカ** 平年並 (前年並)
縞葉枯病 平年並

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) **ヒメビウンカ**は、イネ科雑草で越冬するため、前年の発生状況等が翌年の発生に影響する。
- (2) **縞葉枯病**は、**ヒメビウンカ**により媒介され経卵伝染する。

メス成虫



2. イネミズゾウムシ

予報内容 発生量 : **平年比 やや多い** (前年比 やや少ない)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 前年の新成虫が越冬し、田植え後、水田に侵入して葉を食害する。5 月中下旬から卵を産む。
- (2) ふ化した幼虫は、土中で根を食害する。
- (3) イネが根腐れするような水田では幼虫の被害が出やすいので、深水を避け、根を健全に保つ。
- (4) 浅水管理は成虫の産卵行動を阻害し、産卵場所を制限する効果がある。
- (5) **粒剤の育苗箱施用の効果が高い**。なお、**イネドロオウムシ**の常発地では、この方法で**イネドロオウムシ**も合わせて防除ができる。
- (6) 育苗箱施用をしなかった場合や田植え後発生が多く、成虫が株当たり0.3 頭を越える場合は、そのまま放置すると経済的被害が発生する。

イネミズゾウムシ



幼虫



成虫

成虫被害



被害

イネドロオウムシ

幼虫



成虫

果 樹

1. **カキ** 炭疽病

予報内容 発生量： 平年並（前年並）

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 主として枝の病斑で越冬し、新梢や果実への伝染源となる。
- (2) 新梢の発病が多いと果実の発病が多くなるので、発病を認めた新梢は速やかに切り取り、園外の土中に埋める等処分する。
- (3) 5～6月に降雨が多いと、新梢や幼果の発病が増える。



枝



枝葉



実

野 菜

1. **野菜類** アブラムシ類

予報内容 発生量： 平年並（前年並）

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、無翅虫が集団で作物を加害するが、密度が高まると有翅虫が現れて分散し、発生が拡大する。
- (2) は種または定植する際には、寒冷紗被覆やシルバーマルチやシルバーテープ等により有翅虫の飛来を防止する。
- (3) **アブラムシ類**には直接吸汁加害するだけでなく、**モザイク病**を媒介するものもいる。

2. キャベツ 菌核病

予報内容 発生量 : 平年比 やや多い (前年比 やや多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 春に発生が多く、適温は20℃前後、曇天雨が続く時に発生しやすい。
- (2) 発生終期に形成された菌核は土中に落ち、次作以降の伝染源となる。菌核は土壌中で2～3年間生存可能である。
- (3) 発病株は菌核を形成する前に抜き取り、土中に深く埋めるなど処分する。



■ 菌核病の防除体系 例

発病前は

M07(M)

ベルコート 水和剤 [1000倍 収穫14日前まで/3回以内]
ベルコート フロアブル [1000倍 収穫28日前まで/3回以内]

予防剤を **ローテーション散布**

発病が認められたら

12(E2)

セイビアー フロアブル20 (株腐病)
[1000倍 収穫3日前まで/3回以内]

11(C3)
7(C2)

シグナム WDG

[カンタス+カルピオ]

[1500倍 収穫7日前まで/2回以内]
(株腐病、べと病)

2(E3)

ロブラール 水和剤

[1000倍 収穫前日まで/7回以内]
(株腐病)

治療剤を加えた **ローテーション散布**

11(C3)

ファンタジスタ 顆粒水和剤

[2000~3000倍 収穫3日前まで/3回以内]
(黒斑病、根朽病、灰色かび病)

アミスター20 フロアブル [2000倍 収穫7日前まで/4回以内]
(株腐病、黒斑病)

7(C2)

パレード20 フロアブル

[2000~4000倍 収穫前日まで/3回以内]
(株腐病、根朽病)

アフエット フロアブル [2000倍 収穫前日まで/3回以内]
(黒斑病、根朽病、灰色かび病)

※ (病害名) は、菌核病以外の登録病害。他害虫と同時防除できます。

3. アブラナ科野菜 コナガ

予報内容 発生量 : **平年比やや多い (前年比 やや多い)**

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 高温、乾燥が続くと発生が多くなりやすく、雨が多いと発生が抑制される傾向がある。
- (2) 防虫ネット等を利用し、物理的防除に努める。

形態 : 成虫は体長6mm内外、翅の開張12~16mmで褐色、雄は白色の鋸歯状の斑紋がある。卵は楕円形で0.5mm、淡黄色である。幼虫は鮮緑色で成長すると体長10mm内外、手を触れると糸を吐いて地上におりる。和名のコナガは「小菜蛾」に由来する。

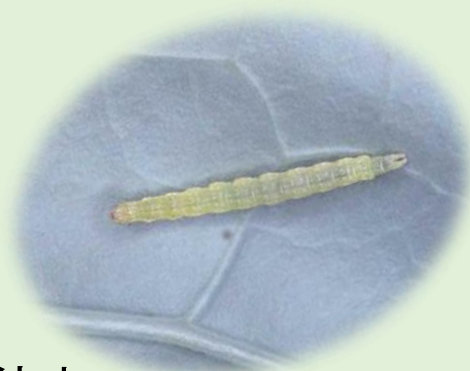
生態と被害 : 成長が早く、年間発生回数が多い。寒地では年5回の発生であるが、暖地では13回に及ぶ。越冬は一般に蛹で行われるが、西南暖地では各ステージのものが見られ、冬期も成長を続ける。5~6月と秋に多いが、冷涼地では夏にも多発する。幼虫は葉の表皮を残し、葉緑層を食害するので生育が遅れ、多発すると畑全体が白く見える。また、幼苗などは芯葉を食害され、いわゆる芯止まりとなってキャベツなどは結球できなくなる。

防除の

- ポイント** : ● 薬剤抵抗性の事例が多いので、各種薬剤をローテーションで用いる。
● 春、秋に発生が多いので、この時期を重点に防除する。



老齡幼虫



成虫



■ キャベツ コナガ の防除体系 例

育苗期に

定植時に

28

ベリマーク^{SC}

[400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用
土壌約1.5~4L)あたり0.5L
/ 育苗期後半~定植当日 / 灌注 / 1回]
(アオムシ:アザミウマ類:アブラムシ類:ウワバ類:
ネキリムシ類:ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ:
ヨトウムシ)

OR

1B

ジェイエース^{殺虫剤} 粒剤

[3~6kg/10a (1~2g/株)
定植時 / 植穴処理 / 1回]
(アオムシ:アブラムシ類:ヨトウムシ)

28

プリロツソ^{殺虫剤} オメガ

[1g/株 / 育苗期後半~定植時 / 株元散布 / 1回]
(アオムシ:ハイマダラノメイガ)

4A
28

ミネクトデュオ^{殺虫剤}

[プリロツソ+アクタラ]
[1g/株定植時 / 株元散布 / 1回]
(アオムシ:アザミウマ類:アブラムシ類:
ハイマダラノメイガ)

発生が認められたら

UN

プレオフロアブル

[1000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]
(アオムシ:オオタバコガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

1B

ジェイエース^{殺虫剤} 水溶剤

[1000~1500倍 / 収穫30日前まで / 1回]
(アオムシ:アブラムシ類:タマナギンウワバ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

4A

ダントツ^{水溶剤} (アオムシ)

[2000倍/収穫3日前まで / 2回以内]
モスピラン^{顆粒水溶剤} (アオムシ)
[1000~2000倍 / 収穫7日前まで / 5回以内]

30

グレースシア^{乳剤}

[2000~3000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]
(アオムシ:ウワバ類:オオタバコガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

プロフレア^{SC}

[2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]
(アオムシ:ウワバ類:オオタバコガ:ハイマダラノメイガ:
ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

5

ディアナ^{SC}

[2500~5000倍 / 収穫前日まで / 2回以内]
(アオムシ:アザミウマ類:ウワバ類:オオタバコガ:
ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

34

ファインセーブ^{フロアブル}

[1000~2000倍 / 収穫3日前まで / 2回以内]

ローテーション散布

28

ベネビア^{OD} [2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

(アオムシ:ウワバ類:オオタバコガ:ハイマダラノメイガ:
ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

ヨーバル^{フロアブル}

[2500~5000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]
(アオムシ:アザミウマ類:アブラムシ類:ウワバ類:オオ
タバコガ:シロイチモジヨトウ:ハイマダラノメイガ:ハスモン
ヨトウ:ヨトウムシ)

6

アキ^{乳剤}

[1000~2000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内]
(アオムシ:ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ)

アフーム^{乳剤}

[1000~2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]
(アオムシ:タマナギンウワバ:ハイマダラノメイガ:
ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)

13

コテツ^{フロアブル}

[2000倍 / 収穫前日まで / 2回以内]
(アオムシ:オオタバコガ:シロイチ
モジヨトウ:タマナギンウワバ:
ハイマダラノメイガ:ハスモンヨ
トウ:ヨトウムシ)

23

モベント^{フロアブル}

[2000~4000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]
(アオムシ:アザミウマ類:アブラムシ類)

21A
F:39(C1)

ハチハチ^{乳剤}

[1000~2000倍 / 収穫14日前まで / 2回以内]
(アオムシ:アブラムシ類:ハイマダラノメイガ)

14

パダン^{SG水溶剤}

[1500倍 / 収穫14日前まで / 4回以内]
(アオムシ:アブラムシ類:ハイマダラノメイガ)

※(害虫名)は、コナガ以外の登録害虫。他害虫と同時防除できます。

4. ネギ さび病

予報内容 発生量 : 平年比やや多い (前年並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 春季と秋季に比較的低温で降雨が多いと多発する傾向がある。また、前年の秋に多発して、冬が温暖多雨に経過すると、春に多発する。
- (2) 肥切れや窒素肥料のやり過ぎは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (3) 被害葉は伝染源となるので、ほ場周辺に放置せず、適切に処分する。

5. ネギ ネギハモグリバエ

予報内容 発生量 : 平年並 (前年比 多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が葉肉部分を加害し、白い筋状の食害痕を残す。
- (2) 産卵から羽化までの発育所要日数は20℃で約36日、25℃で約23日程度である。
- (3) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (4) 1葉あたり1～数匹の幼虫が加害するバイオタイプA(従来系統)とは異なり、10匹以上の幼虫で集中的に加害し、葉を白化させるバイオタイプB(別系統)の発生を確認しているので注意する。

5. ネギ ネギアザミウマ

予報内容 発生量 : 平年比 やや少ない (前年比 やや 少ない)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 年間、10世代以上くり返し、葉の表層を食害し、かすり状の食害痕を残す。ネギでは葉鞘分岐部や葉折れの内側に多く寄生する。
- (2) 本種はアイリス黄斑ウイルス(Iris yellow spot virus : IYSV)による病害でネギえそ条斑病を媒介する。
- (3) 薬剤散布の他、赤色系防虫ネットやUVカットフィルムによる物理的防除が効果的である。
- (4) 被害葉及び収穫残さが本虫の発生源となるので、残さは一箇所にとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (5) 本種は、殺虫剤感受性低下が懸念されている。殺虫剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布する。また、感受性の低下を避けるため、系統の異なる殺虫剤をローテーション散布する。

ネギハモグリバエ

形態：体長2mmのハエ、幼虫はウジ状。

生態と被害：越冬は蛹で土中で行う。4月頃から発生し、年5～6世代をくり返す。葉肉内にもぐり、葉肉を加害するため、食痕が線状の白斑になる。5月および8～9月に発生が多い。

防除のポイント：

- 苗床および定植時を重点に防除する。



■ ネギハモグリバエの防除体系 例

育苗期に

播種時・定植時に

28 ベリマーク SC

400倍 / セル成型育苗トレイ1箱または
ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用
土壌約1.5～4L)あたり0.5L
/ 育苗期後半～定植当日 / 灌注 / 1回

4A

スタークル 粒剤
アルバリン 粒剤

定植時 / 株元散布 / 1回

タントツ 粒剤

植付時
/ 植溝処理土壌混和 / 1回

発生が認められたら

28

プロロン 粒剤
オメガ

収穫前日まで
/ 株元散布 / 3回以内

4A
28

ミネクト デュオ 粒剤

収穫3日前まで
/ 株元散布 / 3回以内

4A

アクタラ
顆粒水溶剤

[1000～2000倍
/ 収穫3日前まで / 3回以内]

タントツ 水溶剤

[2000～4000倍
/ 収穫3日前まで / 4回以内]

ベストガード 水溶剤

[1000～2000倍
/ 前日まで / 3回以内]

30

グレースィア 乳剤

[2000～3000倍
/ 収穫7日前まで / 2回以内]

プロフレア SC

[2000～4000倍
/ 収穫前日まで / 3回以内]

— **ファインセーブ**
フロアブル

[2000倍 / 収穫3日前まで / 2回以内]

21A

F:39(C1)

ハチハチ 乳剤

[1000倍 / 収穫7日前まで
/ 2回以内]

ローテーション 散布

5

ディアナ
SC

[2500～5000倍
/ 収穫前日まで / 2回以内]

28

ベネビア OD

[2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]

ヨーバル フロアブル

[2500～5000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内]

アルバリン
フロアブル

[2000倍
/ 収穫3日前まで / 3回以内]

6

15

アフーム **エクセラ**
顆粒水溶剤

[アフーム+マツチ]
[1000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内]

15

カスケード 乳剤

[4000倍 / 収穫14日前まで
/ 3回以内]